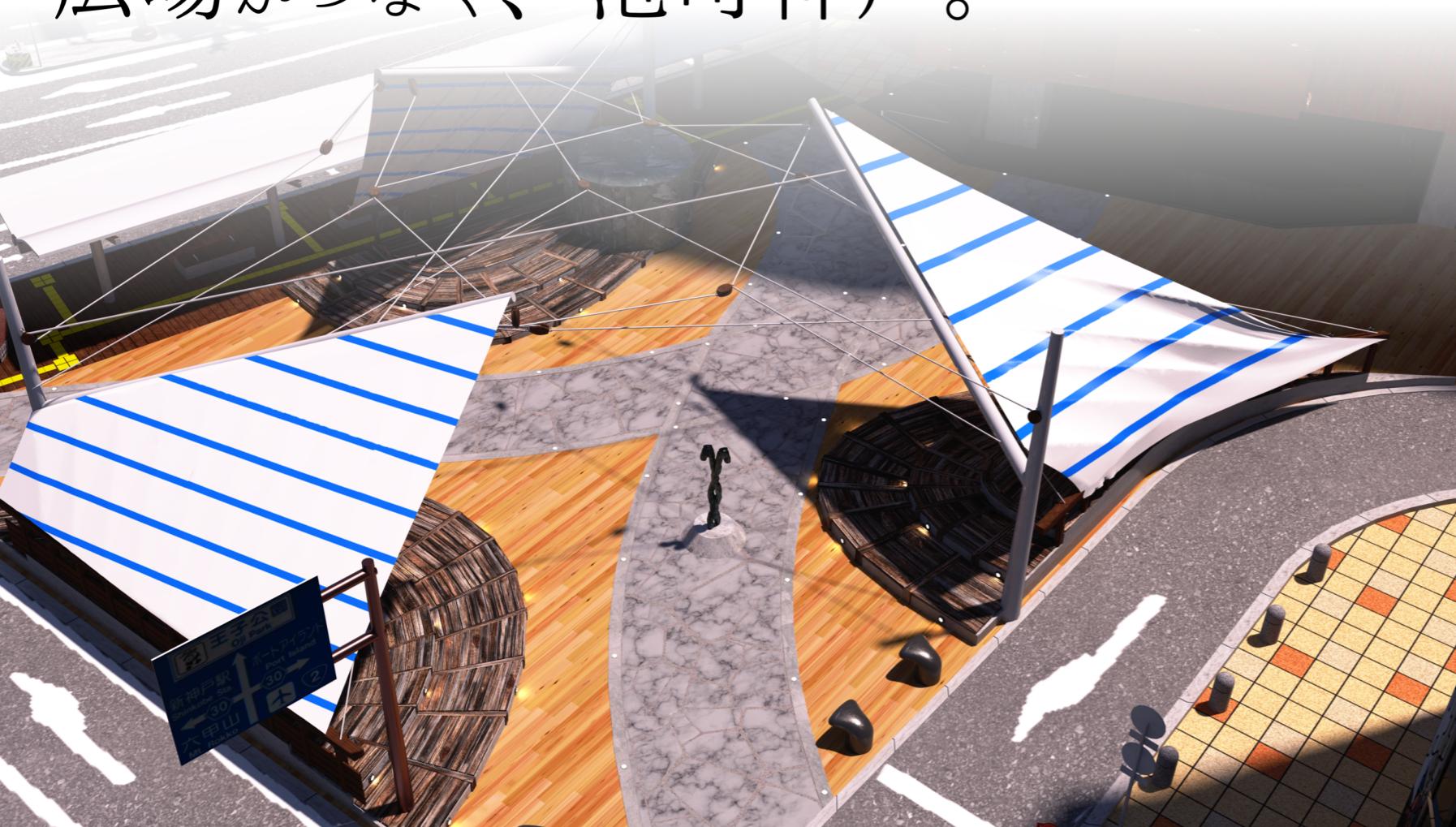


三宮港 さんのみや

広場がつなぐ、港町神戸。



「待つ」と「歩く」の分離

待ち合わせ(=静)に歩きやすさ(=動)を組み合わせるためには、静と動がお互いを邪魔しないように工夫する必要があります。そこで、下のイメージ図のように、待ち合わせ空間の"Deck Stage"と歩行空間の石畳をデザインしました。このように、待ち合わせる人々が人の流れを遮らないようにしています。



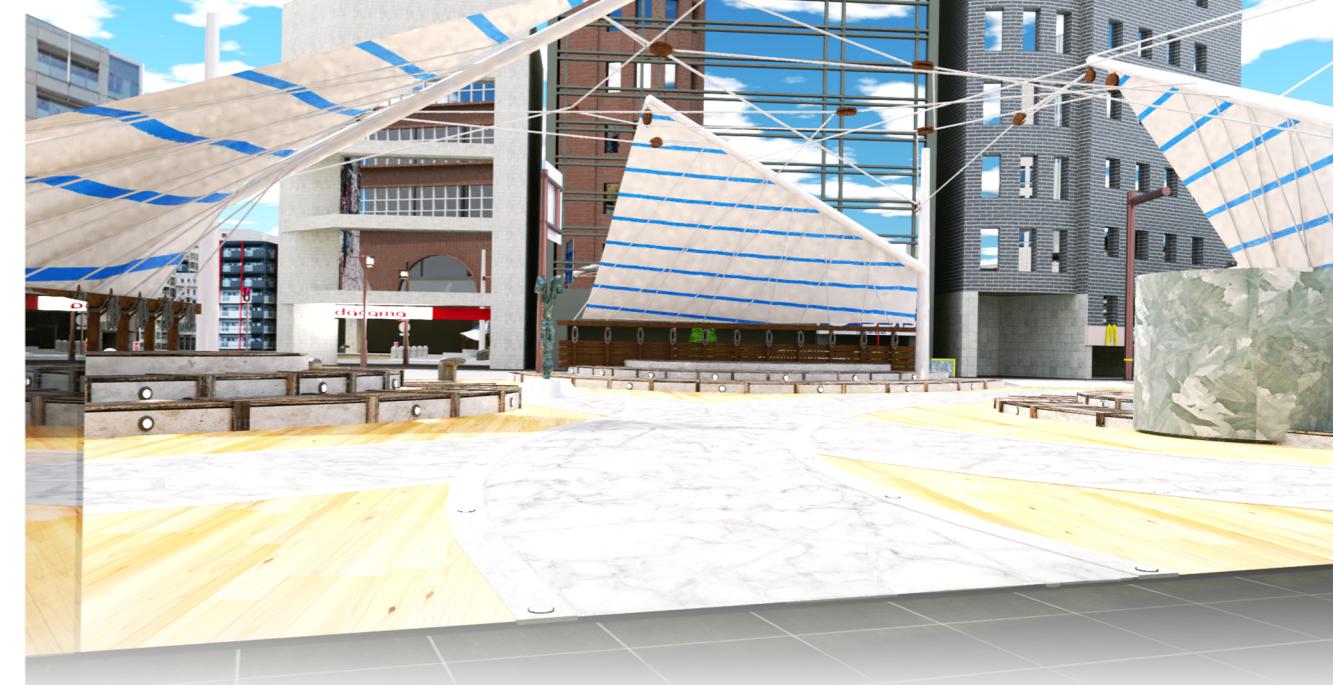
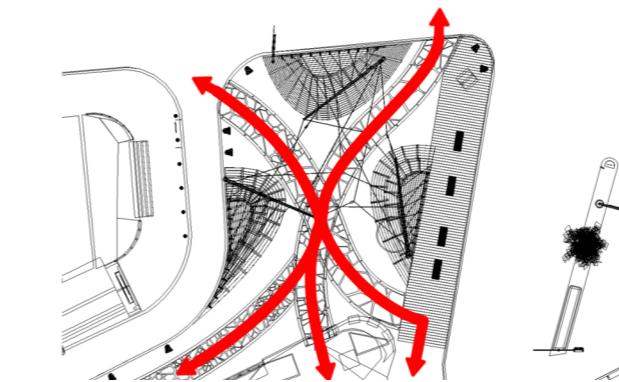
"AMORE"との調和

広場の由来にもなっている彫刻が新たな広場のデザインから浮いてしまっては意味がありません。そのため、石畳を湾曲させることで彫刻を歩行空間の中心に据え、彫刻がデザインに溶け込むように工夫しました。



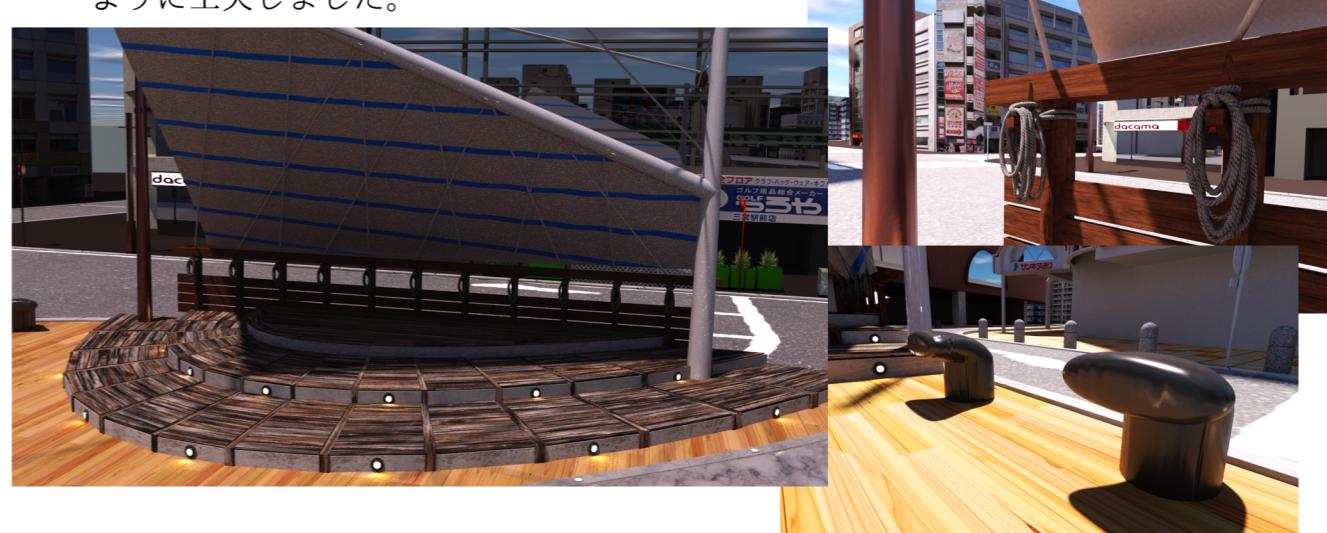
駅から町につながる広場

以前のアモーレ広場では、中央に設置された「パイ山」に人々が腰を下ろす光景が見られました。そのため、広場の中央は必然的に人の流れが滞る空間となり、北野坂や新神戸方面に向かう人々の風通しが良くありませんでした。そこで人々が立ち止まる空間を広場の中央からはずらし、三方向へ分散することで駅の北側に移動しやすい歩行者動線を確保しました。



「神戸＝港町」を感じる空間

神戸は日本有数の港町であり、港を連想する船を"神戸らしさ"のモチーフに選びました。北東西の三方に設置された楕円体"Deck Stage"は、三層の緩やかな段差と頭上を覆う帆で構成されており、船の甲板や船横の桟橋をイメージしています。そして広場全体を船の集う停泊地のようにデザインし、一目で神戸らしさを伝えられるように工夫しました。

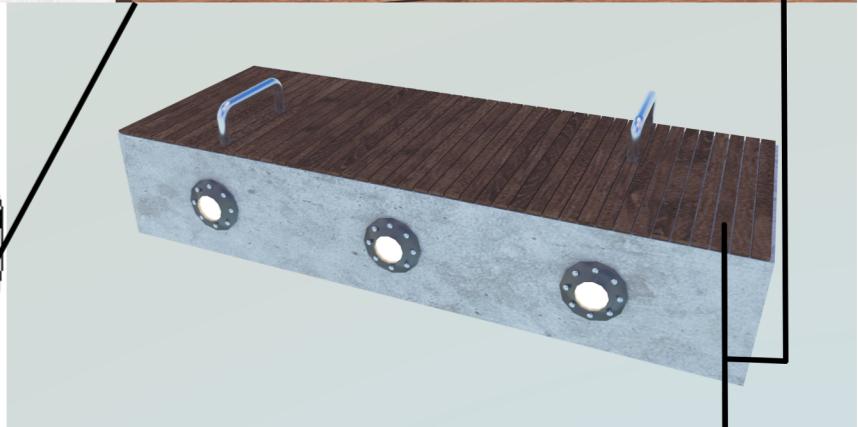
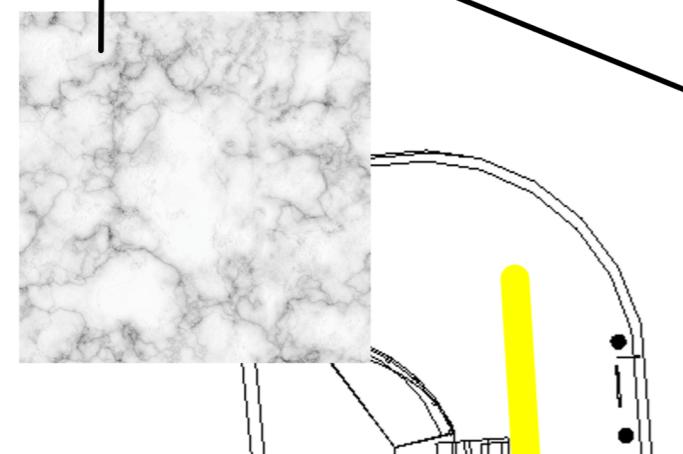
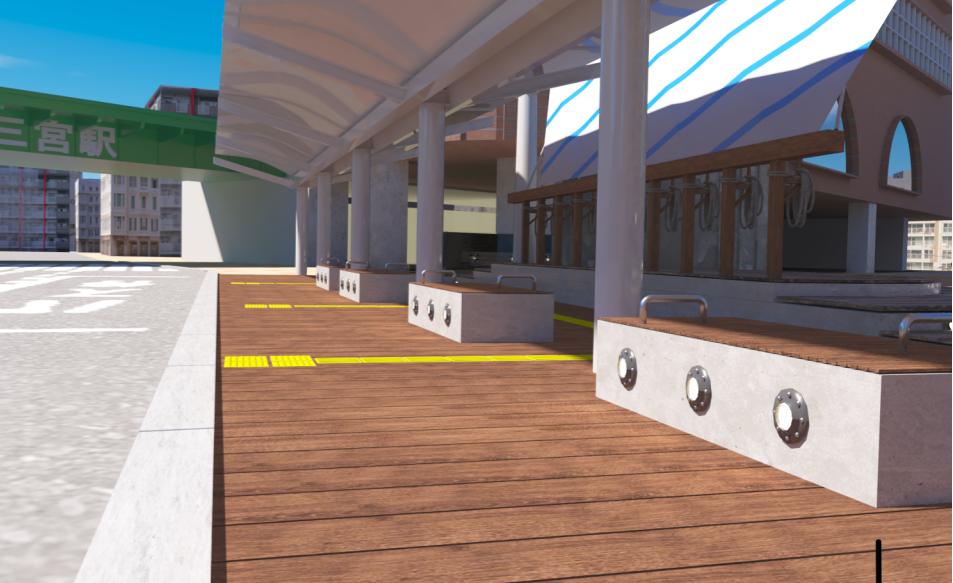
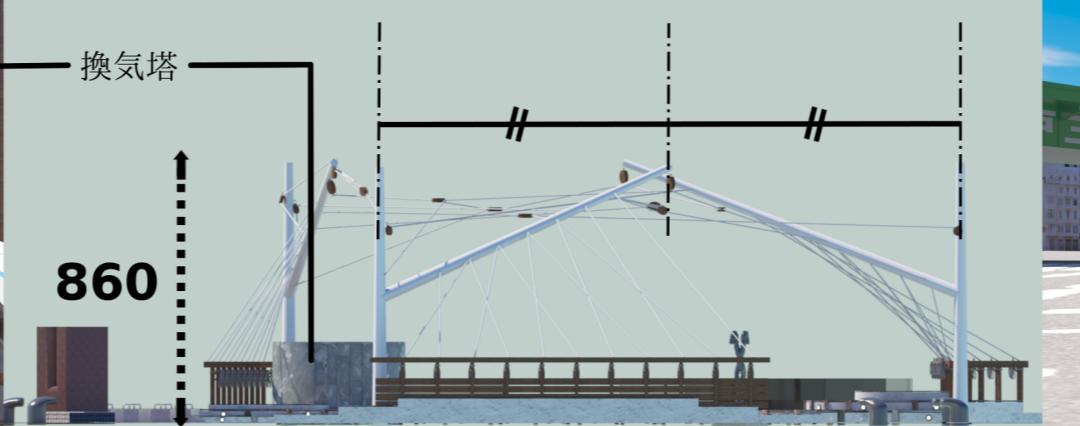


維持コストの削減

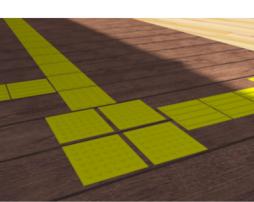
維持管理コストがかかる植生や水景はあえて使用しません。行政が管理することを踏まえると、できるだけ維持費がかからないデザインであることが望ましいと考えられます。

一方で硬材ばかりを使用してしまうと、駅の入口としては冷たい印象を与えてしまいます。そこで木材の露出を多くするによって、柔らかく暖かい印象を得られるように工夫しました。



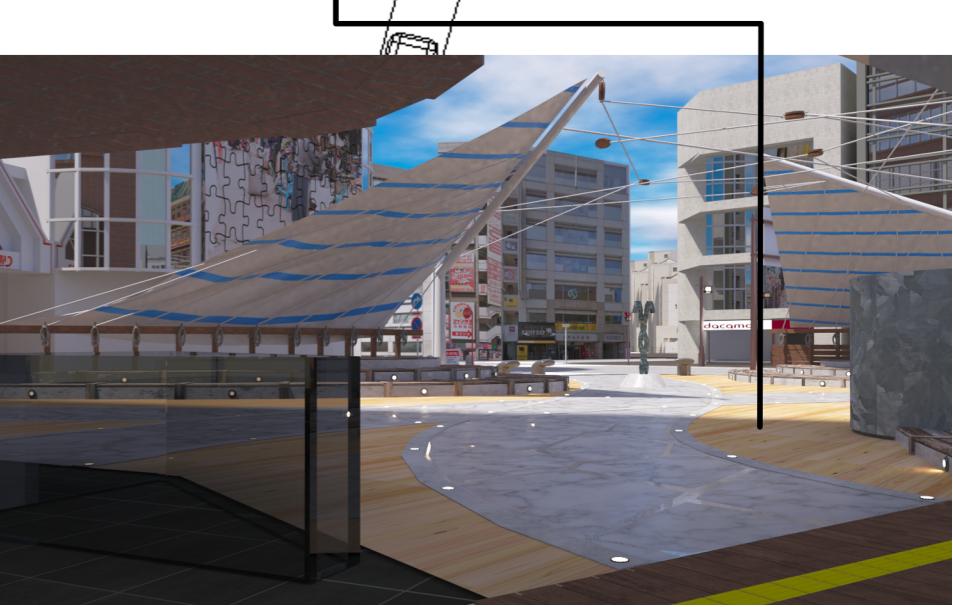


バスシェルターに上図のようなベンチを設けています。できるだけ多くの人が腰かけられるように、ひじ掛けや背もたれは取り除きました。一方で高齢者が使用する場合を考慮し、起居を補助する手すりを二か所に設けています。



・・・視覚障害者誘導用ブロック

点字ブロックはできるだけ直線になるよう設置を心掛けました。ただしメンタルマップでの想像しやすさを考慮し、あえて広場中央には点字ブロックを設けていません。右図のように、新神戸方面にはバス停脇を、北野坂方面はサンキタ通りを経由するルートを想定しています。



AMORE広場に賑わいをもたらすには

~待ち合わせ、だけではない広場の価値~



・週末神戸蚤の市 in AMORE広場

フリーマーケットなどのイベントスペースとして広場の一部を市民に貸し出すことで賑わいを呼び込むことができます。歩行者が移動する空間を確保しているため、Deck Stageに人々が立ち止まつたとしても通行の妨げにはなりません。蚤の市はあくまで一例であり、このほかにも物産展の開催場所やランチの屋台村として利用するなど、いろいろな使用例が想像できます。



・広告塔としての利用

Deck Stageを覆う帆は日除けの目的もありますが、看板としても活用できます。上図は実際に広告スペースとして活用した場合のイメージです。広告料を得ることができれば、照明設備のメンテナンス費や広場の清掃費といった広場の維持管理費を軽減することができます。



・ストリートライブが奏でるサウンドスケープ

以前のアモーレ広場では何人ものストリートミュージシャンが広場を活動の場としていました。場所によっては路上ライブの贅否が分かれるものの、アモーレ広場も音楽で賑わいが作られてきたことを踏まえると、彼らの活動場所としても利用できるように整備することは重要です。



・ローフワークを応用したイルミネーション

Deck Stageの柱やロープをイルミネーションで装飾し、クリスマスなどの冬のイベントを盛り上げることができます。冬の待ち合わせ定番スポットとして定着させることができれば、賑わいも一層増すと考えられます。